**令和元年度南丹市一般会計・特別会計決算の概要**

**令和元年度決算　一般会計の概要**

**歳入　　２３８億　　１０９万　１３２円**

**歳出　　２２８億８，８６９万　８２０円**

令和２年度９月市議会定例会で認定された『令和元年度南丹市一般会計・特別会計決算』の概要についてお知らせします。

令和元年度の一般会計決算額は、市に入ったお金(歳入)が２３８億１０９万１３２円、

使ったお金(歳出)が２２８億８，８６９万８２０円で、差し引きすると９億１，２３９万９，３１２円となり、この内から翌年度への繰越財源３億５万４，０００円を除いた６億１，２３４万５，３１２円の黒字となりました。

ただし、その歳入には、前年度からの繰越金９億５，７５１万４，５７０円が含まれています。

歳入で一番多いのは、標準的な行政サービスを行うために交付される「地方交付税」が９７億８，４４３万２，０００円、歳入全体の４１．１％を占めています。続いて市民税や固定資産税などの「市税」で４２億１，０５９万３，４７０円(１７．７％)の順となっています。

歳出は社会生活に必要な福祉施策経費の｢民生費｣が６１億１，６５４万５，９５３円と最も多く、歳出全体の２６．７％を占めています。続いて｢総務費」が３２億７，８０７万５，１８４円　(１４.3％)、｢公債費｣３２億７，５２８万２，８８２円(１４．３％)、｢教育費｣２５億７，１３６万６，４３３円(１１．２％）となっています。

そのほか、６特別会計（企業会計は除く）について、すべて黒字を維持しております。

本市は、６１６．４平方キロメートルという広大な市域を有しており、この間、多様な市民要望に応え、社会資本の整備を進めてきました。

とりわけ、少子高齢化社会などに対応した子育て施設の充実や、防災・減災対策等々へ意欲的に取り組んだ結果を反映したものとなっております。一方でこれらの施設整備などに伴う市債発行の結果、償還のための継続した公債費や、景気の低迷による減収を背景に財政構造の硬直化が続き、厳しい財政状況となっています。

このような状況の中、持続可能な財政基盤を確立し、第二次南丹市総合振興計画の実施２年度目として、１０年後、２０年後の将来に希望の持てる南丹市の実現に向けたまちづくりを進めてまいりました。